

MARK IDENTIFICATION SYSTEM FOR INSERTION UNIT

Publication number: JP54029928
Publication date: 1979-03-06
Inventor: KATOU TOICHI; SATOU HIRONORI
Applicant: YUUZATSUKU DENSHI KOUGIYOU KK
Classification:
- **international:** **G06K7/10; G06K7/10;** (IPC1-7): G06K7/10
- **european:**
Application number: JP19770095545 19770811
Priority number(s): JP19770095545 19770811

Report a data error here

Abstract not available for JP54029928

Data supplied from the **esp@cenet** database - Worldwide

⑱日本国特許庁

①①特許出願公開

公開特許公報

昭54—29928

⑥Int. Cl.²
G 06 K 7/10

識別記号

⑥②日本分類
97(7) B 23

庁内整理番号
6619—5B

④③公開 昭和54年(1979)3月6日

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 3 頁)

⑤④インサータ装置のマーク識別方式

⑦⑦発明者 佐藤裕規

石川県河北郡宇ノ気町宇野気
ヌ98の2 ユーザック電子工業
株式会社内

②①特 願 昭52—95545

②②出 願 昭52(1977)8月11日

⑦⑦発明者 加藤十一

石川県河北郡宇ノ気町宇野気
ヌ98の2 ユーザック電子工業
株式会社内

⑦⑦出 願 人 ユーザック電子工業株式会社

石川県河北郡宇ノ気町宇野気
ヌ98の2

⑦⑦代理人 弁理士 猪股清 外2名

明 細 書

発明の名称 インサータ装置のマーク識別方式

特許請求の範囲

紙葉面のマーク印字領域からマークもしくはマーク類似要素を検出する光電センサと、この光電センサの出力および紙送り機構からの紙送り量に対応したパルス信号が与えられて、前記光電センサの検出信号が与えられている期間における前記パルス信号の数を計数する回路とをそなえ、前記計数回路の計数値が所定値に達したことによりマークであると認定するインサータ装置のマーク識別方式。

発明の詳細な説明

本発明はインサータのマーク識別方式に係り、特にマークセンス方式を採用したインサータのマーク識別方式に関する。

最近元帳等の機械処理の進歩により、元帳等を印字位置に送り込むためのインサータ装置が汎用されている。そして、このインサータ装置におい

ては、元帳紙葉面に印字行に対応してマークを付して置き、このマークを光電的に読取った上で、この読取り信号に基づいた印字行位置に元帳紙葉を停止させる。この場合、元帳紙葉の紙質が特別に良い場合は別として、通常元帳紙葉では、紙葉面上に記マークと誤認しあいシミ、キズ等の欠陥を有する。

しかしながら、これらの欠陥はマークセンス方式では大きな問題となる。

したがって本発明の目的は、紙葉の欠陥をマークと誤認することを防止し得るマーク識別方式の提供を目的とする。

本発明はこの目的達成のため、光電センサの出力の持続時間を計測し、所定時間以上持続したときにマーク信号とし、そうでないときにはマーク信号でないとして信号識別を行う方式を構成したものである。

以下添付図面を参照して本発明の一実施例を説明する。

第1図は本発明の一実施例を示したものである。

この回路において、光電センサ8はインサータ装置の紙葉挿入通路に、紙葉面の何れかの側縁に沿って付されたマークを読取り得るよう配される。そして、紙葉が送られると、光電センサ8が紙葉の欠陥およびマークを読取り、その読取り信号を波形成形回路W8に与える。波形成形回路W8は、光電センサ8の出力を矩形信号に変換し計数回路CTに与える。計数回路CTは、波形成形回路W8から信号が与えられている間、モータ駆動回路MDから与えられるモータ駆動パルスP₁を計数し、計数出力をマーク幅判定回路MKに与える。マーク幅判定回路MKは、計数回路CTの計数出力が所定値に達したときマーク信号と判定してその出力をモータ停止回路MCに与える。これによりモータ停止回路MCは図示しないモータ電源から与えられるパルス信号をモータ駆動回路MDに与えることを止める。

第2図は第1図の実施例における各部波形を示したものである。同図においてマーク信号P₁は、光電センサ8で検出され波形成形回路W8を経た

信号であり、矩形波となっている。このマーク信号P₁は計数回路CTに対し制御信号として与えられ、計数回路CTはこの信号の与えられている間、計数動作を行う。計数回路CTの計数入力にはモータ駆動回路MDからのモータ駆動パルスP₂であり、この数は紙葉の送り量に対応している。モータ駆動回路MDは、モータ停止回路MCを介して与えられるパルス信号に基づき図示しないパルスモータに駆動パルスを通電し、同時に計数回路CTに対し、モータ駆動パルスを与える。

計数出力信号P₃は、計数回路CTの出力であり、ここでは3ビットカウンタを例示している。すなわち、計数出力1〜3はそれぞれ計数値"1"、"2"、"4"に対応しており、各ビット出力がマーク幅判定回路MKに与えられる。マーク幅判定回路MKは計数出力1〜3の中1、2に出力が生じたとき、すなわち計数値が"5"になるとマーク判定信号P₄を生じる。換言すれば、マーク信号P₁の長さが計数値"5"に相当するものであるときマーク幅判定信号P₄が生じ、計数値"4"

以下であるとき該信号P₄は生じない。

したがって、元紙葉面に印字されたマークの長さに合わせてマーク幅判定回路の動作値を設定すれば、それより長さの短い紙葉面のシミ、キズ等は検出せず、これらのマーク以外のものによってモータを停止させることはない。

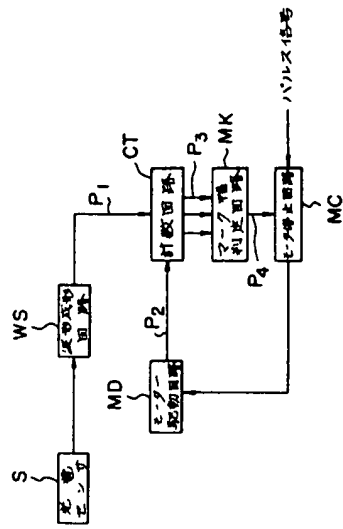
上記実施例では、計数回路CTとマーク幅判定回路MKとの組合わせという構成を採ったが、計数回路CTとしてフリセフトカウンタを用いることによりマーク幅判定回路MKの機能をも持たせ得る。

本発明は上述のように、紙葉面から光電検出した信号の長さを計測し、所定長に達しないものはマークと見ないようにしたため、紙葉面の欠陥等によって非所定位置にて紙葉を停止させたりする不都合のないインサータ装置を提供することができる。

図面の簡単な説明

第1図は本発明の一実施例を示すブロック図、第2図は同実施例の各部信号波形図である。

第 1 図



第 2 図

